

各位

会社名 荒川化学工業株式会社
代表者名 取締役社長 宇根 高司
(コード番号 4968 東証プライム市場)
問合せ先 常務取締役経営企画室長 高木 信之
TEL (06) 6209-8500(代表)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、2022年10月28日に公表した業績予想を下記のとおり修正しましたのでお知らせいたします。

記

1. 2023年3月期通期連結業績予想数値の修正

(2022年4月1日～2023年3月31日)

(金額の単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	83,000	△1,800	△1,600	△3,500	△176円42銭
今回修正予想(B)	81,000	△2,300	△2,100	△3,900	△196円58銭
増減額(B-A)	△2,000	△500	△500	△400	—
増減率(%)	△2.4	—	—	—	—
(ご参考)前期通期実績 (2022年3月期)	80,515	3,304	3,566	1,502	75円75銭

2. 修正の理由

当第3四半期連結累計期間における当社グループの連結業績は、半導体不足や中国におけるロックダウンなどを背景としたスマートフォンや自動車関連分野、ディスプレイ関連分野での生産調整により、主力である光硬化型樹脂などの販売が低調に推移しました。また、ロジンや石化原料などの原材料価格やエネルギーコストの大幅な上昇が収益性に大きく影響しました。特に2023年3月での製造終了(予定)を決定しました欧州における水素化石油樹脂は、天然ガスおよび水素価格の高騰や原料事情の悪化にともなう生産・販売数量の低下による収益性の悪化が顕著になっております。

このような環境のもと、通期業績予想につきましては、主力の光硬化樹脂の主要用途における販売がさらに低調となる見通しであることに加え、堅調に推移していた板紙需要の軟化による紙力増強剤の販売減少や、好調を維持していたデータセンター投資の減速による精密研磨剤の大幅な販売減少など、当社を取り巻く需要環境は厳しさを増しております。さらに、原材料価格に加え、エネルギーコストの大幅な上昇による収益性の低下も継続していることなどから、売上高は前回発表予想を下回り、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益はともに前回発表予想を下回る見込みとなりました。

(注) 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以上